

景観まちづくり学習助成事業実施校 学校名 岡山県新見市立新見南中学校

① 学習指導案

プログラム	No.1 1 「地域景観プランナーになろう」
単元名 (全 時間)	地域の魅力発信プロジェクト (全50時間)
学習のねらい	様々な人と関わり合いながら、地域の資源や課題について学び、自分の生き方や地域の持続可能な未来の実現を目指す。
学習内容	1 修学旅行の民泊先での交流 2 新見市商工観光課による出前授業、新見公立大学学生との交流学习 3 フィールドワーク 4 煌南祭(文化祭)での発表
参考資料 準備品 実施場所等	・新見市観光パンフレット、岡山型PBLガイドブック 等 ・学習用タブレット ・新見市内の観光名所、事業所等、沖縄県伊江島、那覇市国際通り 等

学習の流れ

時間	学習活動	教師の指導	評価
2 14	・ガイダンス、チーム分け ・修学旅行に向けて新見についてのミニプレゼン作成や沖縄についての調べ学習 ※修学旅行：民泊先でのミニプレゼン発表、沖縄の観光業の特長や工夫について取材	・ループリックを共有する。 ・参考のため昨年度の3年生の成果物を提示する。 ・新見にはなくて沖縄にあるもの、またその逆などについて、気づいたことやその理由について考えるよう促す。	主体性 (観察、ワークシート) 情報収集力 (観察、ワークシート)
3 1 4 4	・テーマ設定 ・新見市商工観光課による出前授業 ・フィールドワークの計画 ・フィールドワーク…現地で写真や動画撮影、地域の人に取材	・観光や産業の振興のために市職員がどのような取組や工夫をしているかなど、情報収集に生かす視点を与える。 ・訪問する地域にはどのような自然・景観があるのか、そこでどのような体験をし、誰にどのようなインタビューするか、それらの意義も考えるよう促す。	課題設定力・情報収集力 (観察、ワークシート)

1	<ul style="list-style-type: none"> ・新見公立大学の学生との協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化のために活動している大学生が感じる地域の魅力や課題と自分の考えを比較し考える視点を与える。 ・ねらい（新見市を訪問する人に何を感じ知ってもらいたい）、ニーズ（その地域の魅力や自然を堪能できる体験活動は何か）、地域への貢献（問題を解決するためにできることはないか）等、課題探究に関する示唆を与える。 	<p>コミュニケーション能力 （観察、ワークシート）</p> <p>課題探究力 （観察、ワークシート）</p>
8 2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ、プレゼン作成 ・発表練習 ・中間発表 <p>※煌南祭(文化祭)での発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの振り返り <p>※学校運営協議会での協議 （代表生徒が学校運営協議会に参加）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ループリックで伝え方、見やすさなどの視点を確認させる。 ・新見市商工観光課職員や学校運営協議委員による助言を生かし改善するように促す。 ・保護者や地域の方によるフィードバックを自分の将来や生き方に生かすよう、振り返りの視点を与える。 	<p>表現力 （発表、パンフレット、プレゼン）</p>


<留意点>

② 事業実施報告書詳細

学校名 岡山県新見市立新見南中学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
2	教室	ガイダンス、チーム分け	6班に分かれ、1年間の活動の見通しを立てた。	
14	沖縄	修学旅行・民泊先（沖縄県伊江島）でのミニプレゼン発表		今までと異なる地域でのプレゼン発表に戸惑う生徒も多く、伝わりづらいもどかしさを感じていた生徒も多かった。

3 1	教室 教室	テーマ設定 新見市商工観光課による出前授業(6月5日)		新見市が魅力発信のためにどのような活動をしているかを知ることができた。
4 4	教室 市内	フィールドワーク 計画立案 フィールドワーク	 	新見市内の魅力について調べ、実際に足を運んで調査することで、新見市の持つ魅力を実感できた。地域の方に話を聞き、様々なことを知ることができた。
1	教室	新見公立大学の学生との協議(6月27日)		新見市活性化の活動をしている大学生から、有用な意見をいただいた。外部からの視点を意識することができた。
8	教室 市内	第2回のフィールドワークの計画立案と実施	夏季休業に、公共交通機関を利用するフィールドワークの計画を立てて実施した。	それぞれの班で観点を決めて計画を立て、実施することができた。文化祭での発表に向けて、資料を集め、インタビューをすることで、より地元をよく知ることができた。

8	教室	学習のまとめ プレゼン作成		文化祭に向けて、新見市の魅力の発信・提言を行うためのプレゼンを作成し、中間発表を披露した。外部の方からアドバイスをもらい、改善するように努めた。
2	教室	中間発表(10月3日)		
2	校内	煌南祭(文化祭)での 舞台発表		中間発表での改善点を意識し、堂々と発表できた。各班で創意工夫を凝らし、惹きつける発表ができた。
1	教室	振り返り		自分たちの調べた新見市の魅力を動画にし、それと連動したパンフレットを作成し配布した。どうすればより楽しんで鑑賞してもらえるかを話し合い、工夫を凝らして作成することができた。
5	教室	パンフレット作成		

③ 実施内容について

(1) 実施にあたり工夫した点

当初から、文化祭でのプレゼン発表と、動画と連動させたパンフレットづくりの2点をゴールとして設定し、完成までに何が必要かを考えさせながら活動を行った。

ゴールを意識して活動することで、情報を効率よく収集したり、分かりやすく伝える工夫をしたりすることができた。

(2) 実施にあたり苦勞した点

文化祭のプレゼン発表準備と並行して、動画の撮影や編集、パンフレットの作成を進めていった。

プレゼン発表では、地域の方からアドバイスをもらい改善していくことができたが、動画の作成に関しては、時間の余裕がなく外部の方に助言をいただくことができなかったため、手探り状態での作成となった。著作権の問題を含め、事前の指導を密にする必要があった。

(3) 児童の反応

プレゼン発表に関しては、どの生徒も前向きに取り組み、それぞれの班で独自の工夫を加え、発表の直前まで改良を重ねて、個性的なプレゼンを行うことができ、多くの生徒が達成感を感じる事ができた。

動画作成についても、ノウハウが少ない中で工夫して作成することができた。フィールドワークで調べたことから情報を取捨選択し、著作権に配慮して動画づくりをおこなうことができた。

(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化

この活動では、生徒に活動テーマを決めさせ、フィールドワークの計画立案、情報収集、プレゼン資料まとめ、発表準備など、ほぼすべての活動を生徒に委ね、指導する教員は伴走に徹することにした。その結果、生徒は積極的に、バラエティ豊かな発表を行うことができた。教員が生徒の自発的な活動を支援する過程で、生徒が発信力の向上を自ら意識することができたことなど、PBLを意識した指導を行うことができた。

担当外の教員も、生徒の積極性を意識することで、教科指導に生かすことができた。

(5) 今後の課題と取り組み (児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等)

生徒自身が目標を設定し、その達成に向けた探究のプロセスを主体的に進めるPBLの指導手法は、総合的な学習との親和性が高く、実践に適している。その過程において、教員は適切な支援者として生徒に寄り添いながら、活動が効果的なものとなるよう指導を行う。その反面、定まった形がなく、活動の工程も自分で決められるため、ともしれば意義の少ない活動になる恐れもあるなど、教員の指導は経験の多少に左右されることが多いので、教員も研修を重ねて経験値を上げていく必要がある。

通常の様々な活動のなかで、自己決定の場面を増やすことや、生徒主導の活動にどのように寄り添うかなど、教員側も多く経験を積んでいく必要があると感じた。